

自然災害を乗り越えた先人たち～洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパークの事例

Our ancestors who overcame natural disasters: A case study focused on Toya-Usu UNESCO Global Geopark

*中谷 麻美¹

*Asami Nakaya¹

1. 洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会

1. Toya-Usu UNESCO Global Geopark Council

洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパークは、北海道南西部に位置するジオパークである。主なジオサイトとして、カルデラ湖である洞爺湖と活火山である有珠山を有し、火山との共生が大きなテーマとなっている。有珠山の南側は海に面しており、豊かな海産物と火山からの湧き水に支えられ、縄文時代から人が定住してきた。沿岸には多くの集落が形成されたが、江戸時代には有珠山の噴火によって多くの人命が失われた。当時、有珠山周辺で暮らしていた北海道の先住民族であるアイヌ民族は、その様子を叙事詩（ユカラ）として語り継ぎ、再び起こりうる上有珠山噴火への備えとした。

本発表では、沿岸に残る各時代の遺跡と、アイヌ民族の叙事詩（ユカラ）を例に、繰り返す噴火や津波等の自然災害を乗り越えてきた人々の歴史と、ジオパークで実践されている減災の取り組みを紹介する。

キーワード：ジオパーク、噴火災害、アイヌ民族

Keywords: Geopark, Eruption disaster, Ainu People